



様式第1号

令和4年 10月 14日

真庭市議会  
議長 小田 康 文様



真庭市議会議員 緒形 尚



~~調査研究、研修会、要請~~陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分                    ~~調査研究~~    研修会    ~~要請~~陳情活動

2 訪 問 先

- 1 ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）  
（長野県長野市若里1-1-3）
- 2 防衛省（参議院議員会館・防衛省視察打ち合わせ）  
（東京都新宿区市谷本村町5-1）

3 内 容

- 1 第17回全国市議会議長研究フォーラムin長野  
デジタルが開く地方議会の未来  
基調講演、パネルディスカッション、課題討議
- 2 防衛省視察  
（防衛省、小野田防衛大臣政務官室）

4 行 程                    別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼                    必要    ・    不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

● 参加議員

柴田 正志 (真和会)

緒形 尚 (明日の真庭を考える会)

● 行程

令和4年10月19日～10月21日

☒ 詳細は別紙

視察日程表 2022年10月19日～10月21日

	日付	出発	到着	イベント	内容
1日目	10/19	5:30	6:45	真庭市役所→岡山駅西口パーキング	車移動（中国道・岡山道経由）
		6:50	6:55	岡山駅西口パーキング→岡山駅	徒歩（5分）
		7:06	8:47	岡山駅→名古屋駅	東海道・山陽新幹線（1時間41分）
		9:00	11:58	名古屋駅→長野駅	JRしなの5号（2時間58分）
				長野駅→ホクト文化ホール（長野県民文化会館）	徒歩（10分）
		13:00	16:50	第17回全国市議会議長会研究フォーラム	
				テーマ：デジタルが開く地方議会の未来 開会式・基調講演・パネルディスカッション	
		17:00	17:07	ホクト文化ホール→アパホテル長野 泊：長野県長野市大字敦賀上千歳町1177-3	タクシー（7分）
2日目	10/20	8:43	8:50	アパホテル長野→ホクト文化ホール	タクシー（7分）
		9:00	11:00	第17回全国市議会議長会研究フォーラム 課題討議・閉会式	
		11:10	11:20	ホクト文化ホール→長野駅	徒歩（10分）
		15:21	16:52	長野駅→東京駅	北陸新幹線（1時間31分）
		17:04	17:10	東京駅→有楽町駅	徒歩（6分）
		17:18	17:21	有楽町駅→永田町駅	有楽町線（3分）
17:21	17:25	永田町駅→全国町村会館 泊：東京都千代田区永田町1丁目11-35	徒歩（4分）		
3日目	10/21	10:00	10:05	全国町村会館→参議院議員会館 防衛省視察事前打ち合わせ（小野田参議院議員事務所）	徒歩（5分）
		12:03	12:07	参議院議員会館→永田町駅	徒歩（4分）
		12:07	12:10	永田町駅→市ヶ谷駅	有楽町線（3分）
		12:10	12:19	市ヶ谷駅→防衛省	徒歩（9分）
		13:00	15:00	防衛省 防衛省視察、小野田防衛政務官室	
		15:38	15:48	防衛省→四ツ谷駅	徒歩（10分）
		15:48	15:57	四ツ谷駅→東京駅	中央線（9分）
		16:09	19:22	東京駅→岡山駅	東海道・山陽新幹線（3時間13分）
19:25	19:30	岡山駅→岡山駅西口パーキング	徒歩（5分）		
19:30	20:45	岡山駅→真庭市役所	車移動（中国道・岡山道経由）		



様式第2号

# 報告書



令和4年11月20日

真庭市議会議長 小田 康文様

報告者 真庭市議会議員 氏名 緒形 尚  
柴田 正志



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和4年 10月19日 (午前—午後) 5時30分 至 令和4年 10月21日 (午前・午後) 11時00分
2	場 所	1 ホクト文化ホール (長野県長野市若里1-1-3) 2 防衛省 (東京都新宿区市谷本村町5-1)
3	用 件	1 第17回全国市議会議長研究フォーラムin長野 2 防衛省視察
4	概 要	別紙にて報告

## 第 17 回全国市議会議長会研究フォーラム

テーマ「デジタルが開く地方議会の未来」

日時:2022 年 10 月 19 日・20 日

会場:長野市ホクト文化ール

報告書:柴田 正志・緒形 尚

---

### 第 1 日目(10 月 19 日)参加研修レポート

---

#### 基調講演「コロナ後の地域経済」

講師:富山 和彦 氏

株式会社 経営共創基盤(IGPI)グループ会長

株式会社 日本共創プラットフォーム(JPIX) 代表取締役社長

◎現状/平成 30 年間に進んだ破壊的な変革の波はコロナでさらに拡大・加速する。

■市場経済圏の全世界化とデジタル革命の進展が破壊的イノベーションを拡大させ、デジタル革命:AI 新時代(第 4 次産業革命)が到来している。

(自動車・重電・建設・物流・観光・飲食・医療・農業などすべてのリアル産業で AI 革新による産業イノベーションの時期が到来している。)

■世の中のイメージでは東京都市圏にグローバル大企業の勤労者の多くが集まり GDP の多くを占めているように映るが、現実ではグローバル大企業は GDP の 30%、勤労者は 20%であり、ローカル経済圏が GDP の約 90%を占めている。(ローカル経済圏は人手不足となっている。)

■そのような現実の中で人口集中の東京では 1 人あたりの GDP がどんどん下がっている。(日本では山形、茨木の成長率が高い)

■グローバル競争の中で日本経済・企業の地位が低下・・・日本型の競争モデルは耐用期限切れである。

◎これから/日本経済復興の本丸はローカル経済圏、中堅・中小経済圏の成長である。

■中小企業は GDP の 7 割、雇用の 8 割を占めている。その比率は上昇を続けている。しかし労働生産性は低く、マネジメントレベルも低い。そこに成長余力があり、DX は成長の機会となる可能性がある。

DX 活用など新たな取組による生産性向上、成長を目指すべきである。

◎課題と対策/ローカル経済圏でなぜ当たり前のことができないか・・・

■新陳代謝が進まない理由は過度な企業内共助依存型の日本型セーフティネットシステムである。公共性に関わる事業領域は PPP 方式へシフトすべきである。

■多極集住の推進がカギとなる

■競争法改革と多業種兼業型の地域事業モデルの創造が必要である。

(バス会社、鉄道などを一体化して地域 MAAS 事業者へなど)

<感想>

柴田:公共交通では AI を活用した「自動運転バスへの取組や技術」の紹介、路線と停留所を決めない「リクエスト型最適経路バス」のお話、南紀白浜を東京からたった 1 時間のリゾート地とし「南紀白浜エアポート:ワーケーション実績」の説明などがあり、AI の活用により様々な産業で生産性革命実現の可能性があることがわかりました。AI を活用して何が出来るか、そういったことがわかる超高度人材との関わりを持つことによりローカル産業の生産性、収益性が抜本的に改善される可能性があることがわかりました。

またお話の中で観光産業はシニア層をターゲットにするのが良いと言われ、とても現実的であると思いました。

---

## パネルディスカッション

### 「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」

コーディネーター 人羅 格 氏 (毎日新聞社論説委員)

パネリスト

岩崎 尚子 氏 (早稲田大学電子政府・自治体研究所教授)

牧原 出 氏 (東京大学先端科学技術研究センター教授)

湯浅 壘道 氏 (明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授)

寺沢 さゆり 氏 (長野市議会議長)

◎デジタル化の全国の議会の取組では・・・

- ・委員会等のオンライン開催状況(R3.1/1～12/31) 開催した 17.4%。
- ・オンライン開催に係る会議規則、委員会条例の改正状況(R3.12/31) 行った 9.4%
- ・全議員を対象としたタブレット端末の導入状況(R4.12/31) 導入 51.9%。
- ・会議録の ICT 化 インターネットによる検索システムの導入状況 導入している

86.1%。

・会議録作成における音声認識システム導入状況 導入している 23.9%。  
などであった。

#### <感想>

柴田・緒形:全国自治体の状況を知ると、真庭市は進んでいる自治体であると確信した。

#### ◎議会デジタル化の意義は

■平時・災害時・コロナ禍にかかわらず議会機能を十分に発揮し、住民とのコミュニケーションを確保できる危機に強い議会の構築をするため。

■議会に何らかの制約で出席できない議員をできるだけ減らし、民意を反映できるようにすること。

など

#### ◎議会デジタル化による住民との関係の再構築

■議会 Web サイトを通じた広報、議事録公開、本会議のインターネット公開、意見聴衆、議員の SNS による発信等様々なものが行われている。しかし一方通行のコミュニケーションが多い。議会報告会やこども議会等の双方向のコミュニケーションをオンラインで開催できれば、協働性が高まり、住民の議会・議員の活動への理解度が高まる。

#### ◎その他

■市議会が域内のコミュニティーを取りまとめる役割を果たす為にデジタル改革は必要である。

■議会運営のデジタル化により、多くの国民がオブザーバーとして議会運営に参加出来る機会を持つことも、意見書や請願書をオンライン提出することも技術的には可能となる。

■市民への「議会報告会」はハイブリッド開催などのデジタル化がなじむ。

普段からデジタル化を進めていないとそうした対応も難しくなる。

(字幕を使うのが有効)

#### <感想>

柴田:デジタルを使って何が出来るか。何が解決できるか。どう良くなっていくか。開かれた議会、身近な議会に向けて考えて行く必要があると思いました。

一方で身近な住民の中にはデジタルには縁遠い方も多くおられる為、デジタルを活用

した議会活動、議員活動を推進しながらも、従来通りのコミュニケーションでの対応も大切にしたいと思いました。

委員会においては何らかの理由で参加できない議員のオンライン参加。コロナ禍における議会報告会・市民と語る会のオンラインでの開催は推進するべきと思いました。

---

## 第2日目(10月20日)参加研修レポート

---

### 課題討議「地方議会のデジタル化の取組報告」

コーディネーター:谷口 尚子 氏(慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授)

パネリスト:金澤 克仁 氏(取手市議会議長)  
板津 博之 氏(可児市議会議長)  
林 晴信 氏(西脇市議会議長)

#### ● 取手市議会

##### ■ ICTを活用した主な取組

- ① 会議(50回を超える公式な委員会・その他、非公式会議等で50回以上開催)
- ② オンライン事前説明会で議案理解度の向上
- ③ 現地視察(現地に行かずに現場把握)
- ④ 広報・広聴(相手の都合に合わせて開催しやすい)
- ⑤ 災害対応(災害時は地元に残りつつ議会・議員活動)
- ⑥ 研修(オンライン視察は効率的)
- ⑦ ペーパーレス(年18万枚減・職員時間外大幅削減)

##### ■ 議会運営のデジタル化・住民とのコミュニケーション強化の主な取組

###### ① オンライン事前説明

7日前招集告示。その3・4日後、オンラインで市長や部長が提出予定議案の詳細説明



議員は、議案の事前調査が活発。また、聞き逃し、聞き間違いなどがなくなり、より議論の資向上に寄与

- ② コロナ禍、学校休校により育児しつつ、介護しつつ、また、濃厚接触者等により



自宅待機でもオンラインで委員会に出席し審査

- ③ 医療従事者とは平日の夜間、市PTAとは土曜日の午前中など、情報を聞きたい相手の都合に合わせて開催

Democracy(民主主義)

×

Technology(技術)

= DemoTech(デモテック)

四者協定連携で未来に向かう！！

- ① 早稲田大学
- ② 一般社団法人 地域経営推進センター
- ③ 東京インタープレイ株式会社
- ④ 取手市議会・取手市議会事務局

#### ■ 「オンライン本会議の実現に必要な地方自治法改正を求める意見書」提出の経過

平成30年6月、「誰もが政治参画しやすい社会を目指し実効性のある法整備を求める意見書」を。また、令和2年6月には、本意見書と同一件名の「オンライン本会議の実現に必要な地方自治法改正を求める意見書」を内閣総理大臣はじめ関係機関に提出するとともに、「デモテック(デモクラシー×テクノロジー)戦略特別委員会を設置し、官民学連携により、オンライン模擬本会議を繰り返して開催するなど、法改正後のオンライン本会議導入に向けて、実務上の観点からの検証、調査、新しい標準会議規則案の策定に向けて取り組んでいます。

国における問題意識は、法解釈上の問題から国会との比較に論点が流されているとの印象を受けている。

しかし、国会準拠論に法的根拠はなく、地方分権の潮流にも逆行するものでありコロナ禍が収束しない状況で、また、いつ起こるか分からない災害等を想定し、いまだにオンライン本会議を実用化できないことに対して、住民への合理的な説明責任を果たすことが自治体の現場ではできない。

さらに、少子高齢化社会が到来する中で、妊娠、出産、育児や介護、自らの疾病によって容易に外出できない議員でも職責が果たせるよう、自宅から議案審議、表決に参画できる手段が、議員の多様性確保の観点からも求められている。本会議への出席、議決をオンラインでも可能とする地方自治法の速やかな改正を強く要請をしている。

※瑕疵なくオンライン本会議を可能とするよう皆さんの議会からも地方自治法改正を意見書として求めてください！！

## ● 可児市議会

### ■ コロナ禍における議会報告会の開催

議会報告会は、議会基本条例で毎年開催すると規定している。

- ・開始時期:平成 24 年2月～
- ・開催時期:春(5 月頃)と秋(11 月頃)
- ・開催場所:各地区センター(連絡所)単位
- ・運営方法:副議長、常任委員会、議会運営委員会の委員長及び議会広報特別委員会正副委員長をメンバーとした議会報告会実施会議において運営
- ・周知手段:議会だより、ケーブルテレビ、コミュニティFM 放送  
フェイスブック、地域回覧板、チラシ配布等

### ■ With コロナ時代における議会報告会の在り方

完全オンラインでの議会報告会

- ・参加議員:全議員
- ・実施方法:オンライン方式(ZOOM を活用)  
市民(参加者)は自宅から参加(事前予約)  
議員は 登庁または自宅から参加
- ・内容:
  - 第1部 全体「どう使われる?可児市の予算」(予算決算委員会)
  - 第2部 第2部 意見交換会(ブレイクアウトルーム)  
「今こそ考えよう消防団活動」(総務企画委員会)  
「外国籍の人も住みやすい街って?」(建設市民委員会)  
「活用されているの?学校のタブレット」(教育福祉委員会)

## ● 反省点と今後の課題

- ・「報告」という趣旨から、どうしても一方的な説明になってしまった。一部議員には発言いただいたが、参加者を含めた双方向の利点を活かしていき
- ・40 名以上の参加者全体の 気配り・目配りをするには、ホスト側の経験値の積み重ねも必要である。

緒形:改めて、真庭市議会でもコロナ禍における議会報告会・市民と語る会のオンラインでの開催は推進するべきと感じた。前向きでない議員の方に合わせていくのではなく、前向きな議員が推進して引っ張っていかないと前に進まないことを一番学べた。

## ● 西脇市議会

### ■ 議会 DX への取組

#### 議会改革の事始め

- ・かつての西脇市議会はどこにでもある地方議会の典型的なひとつ。平成8年ごろは、定数20名のうち13名が一つの保守系会派を構成していた。
- ・平成17年、旧黒田庄町と合併新市に
- ・平成20年、議員定数削減の陳情書が提出 → 議会最大の転換期



議員定数削減の声は議会不信のしるしだ！！

- ・平成25年、西脇市議会基本条例制定！



※ 議会改革の加速

- ・現在は、議会改革は議会運営委員会で所管

### ■ 令和2年新型コロナウイルス感染症拡大により

- ・議会と語ろう会
- ・高校生版議会報告会
- ・視察調査&受け入れ
- ・陳情者の委員会出席

機能不全？

どうする？



そうだ Zoom だ！

オンラインだっ！ 議会DXやん！ 議会のデジタル革命やねっ

あの一

議場も委員会室も議長室も事務局室内も庁舎LANの都合で Zoom は使えない  
ていうか、議員さんたち使えるんですか？



令和3年3月、新庁舎完成に伴い、議会棟全体の ICT 機器をリニューアル！！

庁舎LANから独立したWi-Fi環境を整備

Zoom ももちろん使用可能、議会独自で Zoom アカウント取得

委員会室にはプロジェクター完備

条例や規定等の整備は、先行自治体議会を参考に



オンライン議会の物理的環境が整ってきたので、令和3年5月の議会運営委員会でオンライン化のための委員会条例等の整備を提案、了承されたのでオンライン化実現に向けてのスタートが切れました。

#### ■ 議会DXについて

- ・自治体DXは、行政も議会もDXしなければならない
- ・自治体DX = デジタルによる、多機能化と効率化(RPA、チャットボット等)
- ・議会DX = デジタルによる、議会の効率化  
デジタルによる、より多くの多様化した民意の集約化  
情報の共有・住民参画・議会の機能強化



人々の生活をより良いものへと変革 = 住民福祉の増進

#### ■ 感想

緒形:オンラインは、非常に便利であり時間と距離を超越してくれる。オンライン視察は、受け入れる側にはメリットが少ない。小さな町なので、来ていただきお金を落としていただきたいと思っているが、オンラインだと町にお金が落ちない。

最初に行ったオンラインでの議会報告会は参加が7名だった。しかし、参加してくれた人は今まで議会報告会に来ていない人で若い人・女性の方が参加してくれた。地域に出向いて行っていた議会報告会は、多くが年配の人で、オンラインで行って行うことのメリットを感じた。

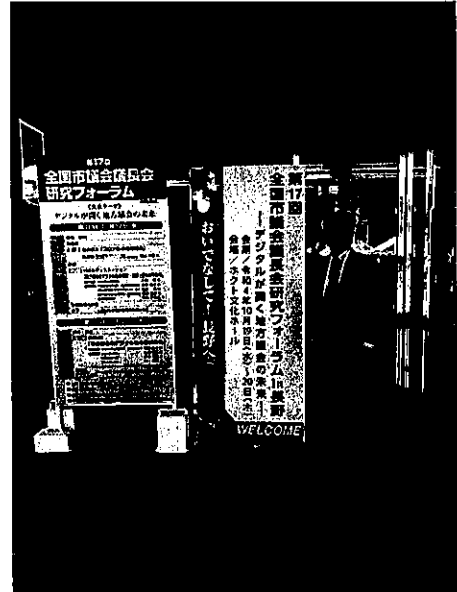
真庭市議会としても議会報告会をオンラインで行うことは重要である(コロナウイルス感染症拡大のため多くの人を集めれない状況が起きた時等)。ただし、真庭市議会議員の中にもオンラインでの議会報告会に後ろ向きな議員もいる。後ろ向きな議員をどう前を向かすか? 市民の意見を聞き政策に結び付けることの重要性を共有し、オンラインでの議会報告会が議会にとって大切なことだということに気づかせ「チーム議会」として議会改革に取り組んでいくことが重要であると思った。

## 第3日目(10月21日)参加研修レポート

- 衆議院議員会館：阿部敏子衆議院議員事務所  
意見交換(真庭市どぶろく特区認定等)

- 防衛省：小野田紀美防衛大臣政務官室  
意見交換・防衛省見学

第2次岸田改造内閣に当たり、防衛大臣政務官に任命された小野田紀美参議院議員と意見交換をした。



ホクト文化ホール 前



市ヶ谷記念館 大講堂



大時計と桜のシンボルマーク